

特別講演

「民間による広域観光推進—昇龍の如く」

多田 邦彦氏

ドラゴンルート推進協議会 会長
和倉温泉「多田屋」社長

愛知・岐阜・富山・石川の4県を縦断する「ドラゴンルート（昇龍道）」。ゴールデンルートに次ぐ、新たな広域観光ルートとして発展させようとしている。特別講演では、その官民連携で活動を進めるドラゴンルート推進協議会会長の多田邦彦氏に、その取り組みについて紹介いただいた。

能登半島を龍の頭に見立てて、
名付けられたドラゴンルート

私は1951年に東京で生まれ、能登半島へ来て今年で40年となります。能登半島は今も昔のままのものが残っていましたが、かなり近代的になってきたようにも思います。「昇龍道」と名付けたのは、能登半島を見ると、龍に似ているとあって、それを声に出して言ったのが私でした。能登半島がなければ、この「昇龍道」はあり得なかったわけです。東海北陸自動車道ができ、能越自動車道もでき、そして玄関である中部のセントレア空港があったということで、この能登半島を龍の頭に見立ててはどうか、と思いつきました。

この「昇龍道」を進めるに当たっては、自分だけの思いだけではなかなか賛同して頂けない。そこでいろんな方々に「能登半島を龍の頭に見立て、下から上がる道をドラゴンルートと名付けたい」と話をさせて頂きました。たまたま中国の方が「ドラゴンルートでは英語だし分からないので、昇龍道にしたらどうか」という意見をもらいました。その頃たまたま名古屋の中国総領事に、私の旅館にお泊り頂きました。総領事に「このルートを昇龍道と名付けて、中国、東南アジアに売り込みたい」と話したところ、「中国人は金と赤色が好きだから、龍を描くのであれば金色にしたらどうか」と言われ、それならばこの事業に対して総領事も一緒にやってください、応援してくださいとお願いしました。

同じ年に中部運輸局の局長が代わられて中国総領事に挨拶に行った時、「昇龍道」の話が出て、局長が「昇龍道」という言葉を使って、岐阜新聞に話をしたんです。我々もずっと考えていたことなので、中部運輸局に困ると話すと、では

一緒にやろうということ言われて平成24年1月23日、セントレア空港で「昇龍道」として発表しました。

この段取りは政府の方でして頂いたので、たくさんの運輸機関とか公的な方々もたくさんご出席頂き、にぎにぎしくさせて頂きました。スタートは大変良かったのです。

実際発案してから4年経つわけですが、先般東京で「昇龍道」プロジェクトフォーラムというのをやりました。やっと関東までその言葉が少しずつ浸透していているのではないかと考えております。

「昇龍道」のルートは、セントレアを中心にして東海北陸自動車道を上がり、そして飛騨高山から金沢、そして奥能登まで行くというようなコースを一応「昇龍道」として我々は売りたいと思っていましたが、中部運輸局からは三重県や滋賀県も入れてくれというような話がありました。全地域を国として売りたいということでした。我々から言えば、太平洋の文化と日本海の文化と、そして真ん中の山の文化がわずか400キロの縦のルートの中で見られるようなところはない。

ヨーロッパには、ドイツのロマンチック街道があります。日本では、東京から大阪までがゴールデンルートとなっているのかもしれませんが、下から上へ真っ直ぐ垂直に伸びている





のがドラゴンルート。

名古屋の中日ドラゴンズの人にも「昇龍道」を一緒にやりませんかと言に行ったりと協賛を頂くことができた次第です。今、セントレ

ア空港はブルーのドラゴンがお迎えし、「昇龍道」の起点ということで一生懸命頑張っているようです。

多くの方にドラゴンルートを知って頂き、基本的にはロマンチック街道のように日本の代表になればいいなという、1つの大きな思いがあります。それが大事です。これを見て龍だという発想によって、新しいものが見えてくるのではないかと、そんな考え方でこのルート売っていかうと決めたわけです。

台湾のハーレーダビットソン愛好家と呼ぶツアーを誘致

「ドラゴンルートって何？」と聞かれた時に答えるのは、まず昇龍ということで、「縁起がいい」と、縁起のいい街道だから「縁起街道」というような名前を付けて、上がることでラッキーと。もう1つは「昇龍古道」。要するに古い街並み

がいっぱいある。歴史もたくさんあるから是非そういう形で楽しんでほしいと説明をします。

外国の方は1泊や2泊ではなくて1週間、10日とか多くの時間を使って日本を見学されます。今、多くの外国の方が来られていますが、ドラゴンルートについては富裕層、お金持ちを呼ぼうと、ハーレーダビットソンをキーワードにしたモデルルートを作ってみました。千里浜という海岸がありますが、その能登有料道路というのが無料になりました。バイクの人達にとっては、料金所などでヘルメットや手袋を外さずに走れる事になったというのは大変良いこと。そしてお金持ちとなるとハーレーです。そこでハーレーを調べてみますと、HOGという会があり、東南アジアやヨーロッパ、アメリカにもあります。台湾のHOG会員は、25団体6000人がいます。是非来て頂いてハーレーのレンタルバイクに乗ってモデルルートを走ってもらいたいと考えて、4回ほど台湾へ誘致に行きました。

最初は、それほど感触は良くなかったのですが、回を重ねるごとに何とかハーレーの人達を呼びたいという私の気持ちが伝わり、1年越しで誘致が決まりました。後ほどビデオで紹介しますが、台湾の人たちにとっては、千里浜のような海岸を走るのがとても珍しくて喜ばれました。世界にバイクで走る事の出来る砂浜が3カ所あるそうで、その1つがこの千里浜。ここをメインに走ってもらう1週間のコースとなりました。

では、映像をご覧ください。

新幹線開通を契機に、金沢を中心にサーキュレーションを起こす

ドラゴンルート推進協議会とすれば、これを日本のロマン

映像：台湾のハーレードラゴンルートツアー

昨年台湾の人が来て一緒に走ったツアーは、金沢でハーレーを借りて出発。千里浜なぎさドライブウェイは、台湾の人に人気でした。小松空港に出迎えてウェルカムパーティーをやりました。バイクにはカップルで乗る人が多いです。

私も1週間、車でバイクの後をつけて走りました。最初はいらしゃいませだけだった会話も、1週間過ぎますと最後は30数人とハグして別れを惜しまました。台湾の人達には大変喜んで頂けたようでした。よく「人・モノ・金」と言いますが、これにプラス「心」、気持ちではないかと思えます。人がいても心がなければいけ

ない。一生懸命やると一生懸命応えてくれると思えました。化学、物理で言う「伝導の法則」がありますが、熱いものをつけると熱が伝わります。やはり自分の気持ちを熱い思いで相手に語りかけると、相手の心が動く。まさに感動とは心の動きだと思います。形だけを作るということではなくて、本当に相手のことを思っているかどうかです。

1週間、能登から岐阜まで行き、また戻ってきましたが、このルートだけがドラゴンルートではなくて、これが基本の軸として枝葉を付けて観光ルートになればいいと思っております。

チック街道と言え代表のルートにしたいというのが1つの大きな目標です。

私の名刺には逆さ地図を入れています。日本の歴史は日本海で作られたということ、なおかつこの能登の位置、金沢、北陸の位置は日本の真ん中にあるということをもう一度思い出して頂こうと思います。今東京から新幹線が来ます。能越自動車道七尾氷見道路も2月28日に開通し、東海自動車道も北陸自動車道も開通しています。東京から金沢まで来て、大阪、名古屋、京都にも行けるというサーキュレーションが、これから大事ではないかと思えます。今は回すということが力です。お金も回す、頭も回す、もちろん台風も回っていますし、回ると言うことは力を与えるということで、東京から新幹線が来ると言うことはすごいことと思って頂きたい。特に金沢の場所はすごい場所になるのだということをもう一度考えて頂きたい。要するに日本海の雄になれるのではないかといい素晴らしい。北陸全体をこういう意味でとらえて是非皆さんで、観光に力を入れたらどうだろうなと思えます。

ひとつ提案します。金沢の観光地図は兼六園を中心にしており、金沢の駅から向こうはほとんど地図がありません。新幹線が来るに当たって、東口が兼六園口になって、西口が金沢港口となります。そう言っている割には観光地図には金沢港が出てこない。去年、金沢港には15隻くらい海外からの客船が来て、1万6000人くらいが金沢港で降りて市内見学な

どをしました。金沢がピカピカ光る事によって、北陸全体も良くなるし、能登ももちろん良くなる。そのためにもう少しこの辺をきちんとしなくてはいけないのではという提案です。

金沢駅から50メートル道路が港まで真っ直ぐ通っています。今、港は荷揚げだけでやっている感じで港イコール運搬・運輸というイメージですが、ここに観光を付けて、観光の港・金沢港というようなことにして、古い街並みの金沢と金沢港を中心にして新しい観光スポット、新しい街並みを造ってもいいのではないかと。金沢にも新潟の朱鷺メッセのような国際会議場があるのではないかと、と思います。冬は雪が降っているわけですから、室内、ドームがある。特にドーム球場などは多分金沢の人はほしいと思います。外国の方が来るのは会議場でしょうが、ドームはライブで何万人が集まります。プロ野球やサッカー、AKB48を呼ぶにしても、多くの人が集まることができ、経済効果も抜群ではないかと思えます。これから新幹線が来てサーキュレーションを起こせる金沢は、中心になります。是非シンボリックな施設を建てるべきではないかと思えます。

未来ビジョンを描き、目的目標を持って進む

金沢港までの50メートルラインは何かと言いますと、ライトレール、路面電車の路線です。これは富山で走っています



が、往復運動ではだめで、循環するようなサーキュレーションにすると力が湧いてくるのではないかと考えて、50メートル道路と県道・金石街道をライトレールで結ぶ。こんなようなことを考えました。2020年の東京オリンピックには、外国の方がたくさん来られるわけですから、波及効果は相当なものがあると思います。ですから高山の素晴らしさ、そして金沢、北陸、能登の素晴らしさ、そういうのを一体化しているのがこのドラゴンルート上にあるものではないかと考えております。

いち早くそういうことに金沢が目覚めて、自然と文化の素晴らしさを認識しながら大きなビジョンを作り、そして目的、目標

を作って進めて頂ければいいのではないかと考えております。

最後に、熱い心は熱く伝わるということなので、熱く語れるかどうかということが大事です。お金のことはさておいて、問題はどのように金沢がなり、自分の孫子の時代にはどう変わっているか。そのための礎になれるかなれないかではないかと考えているわけです。今日は皆さんに「昇龍道」という言葉を基本にしていろいろお話いたしました。十分に話せたかどうか分かりませんが、今後「昇龍道」を応援して頂ければと思います。ありがとうございました。



プロフィール●

多田 邦彦(ただ・くにひこ)

ドラゴンルート推進協議会会長／和倉温泉「多田屋」社長

1951年東京都出身。立教大学卒業後、白崎シーサイドホテル入社。1991年に同社代取締役就任。1994年に白崎シーサイドホテルの屋号を多田屋とする。2010年にドラゴンルート推進協議会を設立し代表に就任。2013年能登半島広域観光協会常任理事に就任。この他、和倉温泉協同組合理事。和倉温泉観光協会理事、和倉温泉合資会社代表社員、石川交通安全協会監事、有限会社福福専務取締役等の役職を務めている。